

貧困・投機・環境問題をどのように解決していったらよいのか——資本主義日本の改革の方向を示す「しんぶん赤旗」を「購読ください。」

「近所のみなさん、日本共産党です。」

原油や穀物価格の世界的な高騰（こうとう）や食糧危機、働いても働いても暮らしがよくなるない「ワーキングプア」など、貧困と格差の広がり、そして地球温暖化などの環境問題・これらの問題を解決するために、今ほど叡知（えいち）の結集が求められているときはありません。

最近、新聞やテレビでも、資本主義はこのままでよいのか、資本主義は限界ではないのかといった、特集が組まれるようになりました。

今日は、これらの問題について、日本共産党がどのように考えるのか、その一端をお話ししたいと思います。ご協力を、よろしくお願ひします。

あわせて、資本主義日本の改革について、詳しく報道する「しんぶん赤旗」のご購読も、よろしくお願ひします。

みなさん。

アメリカで、もともと回収が困難な、所得の低い方向けの住宅ローンを、証券化して売り出したことが、世界中で大問題になっています。利子が高くなれば、住宅価格が上がり続けるはずだという、詐偽まがいの「理屈」が破綻して起こった、いわゆる「サブプライムローン」問題です。各国の金融機関が、大きな損害をこうむりました。

ありあまる投機マネーは、原油や穀物に群がって、世界的な、原油や穀物を中心とした物価高を、引き起こしています。一番困っているのは、世界の庶民です。食料危機で暴動まで起こった国が、あらわれました。

資本主義の健全な発達のためには、「サブプライムローン」のような、詐偽まがいのやり方は、規制する必要があるのではないのでしょうか。

また、諸国民の暮らしを脅かす投機マネーを、野放しにしてはならない、国際的な規制が必要だというのも、当然ではないのでしょうか。

みなさん。

日本経済は、どうなのでしょう。

たとえば、かつて、国民一人当たりの国内総生産・GDPが世界第二位だった日本は、今日、その地位が、第十八位と、下がっています。その原因は、外需頼み・輸出頼みのもろさ、弱さにあるということ、多くの方が指摘しています。

外需頼み・輸出頼みの経済のかじ取りを、内需を大切にしている経済のかじ取りに、切り換える必要が、あるのではないのでしょうか。そのために、労働者・国民のくらしを大事にすることが、何よりも大事なのではないのでしょうか。

ところが、みなさん。

日本には、労働者・国民を守るルールが無すぎます。

労働時間の問題では、ヨーロッパ諸国では当たり前の、残業の上限規制がありません。

派遣労働の問題でも、ヨーロッパでは、一時的・臨時的な業務に限定して、しかも、正社員との均等待遇というルールがあるのに、日本にはありません。「使い捨て」同然の働かせ方が、まん延しています。

労働者派遣法を抜本改正して、派遣労働者を守る必要があります。

「ルールなき資本主義」から、ヨーロッパ・EUなみの「ルールある経済社会」に改革しようというのが、日本共産党が考える、日本改革の道筋です。

大企業に社会的な責任を果たさせる、ルールをつくってこそ、環境問題の解決の道筋もできるのではないのでしょうか。ご静聴・ご協力ありがとうございました。